No.165
公民館だより
平成31年３月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

鶴岡市・酒田市・庄内由良訪問記

由良地区公民館長　磯田充亮

庄内由良との交流は、飛鳥時代に崇峻天皇の第一皇子の蜂子皇子が政変から逃げるため丹後由良から舟で庄内由良にたどり着き、出羽三山を開いたと言われている伝説を元に、昭和53年夏庄内由良の文化財愛好会会長佐藤儀助氏が「蜂子皇子の伝説」をたどり丹後由良に立ち寄ったことから始まりました。

昭和60年に友好の浜の盟約を締結「庄内由良・丹後由良友好の浜」宣言。鶴岡市・宮津市両市長のメッセージを交換し、三年毎に小学生児童を加えた訪問団の派遣を約束しました。

訪問するのは６年ぶりです。

前回まで児童も参加していましたが、庄内由良小学校、当由良小学校とも廃校になったことで自治会グループの交流になりました。

昨年５月、宮津市が日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間―北前船寄港地・船主集落」追加認定され、由良地区の「由良金比羅神社」「由良の舟絵馬群」「加藤家文書」が認定されました。

酒田市は先に北前船寄港地として日本遺産に認定されていました。

酒田港に丹後の船が入港した記録や酒田方面の廻船問屋の名前が列記されている「加藤家文書」などが残っており日本遺産登録を期に酒田市へ交流を持つため訪問を依頼したところ快く受けていただき訪問することになりました。

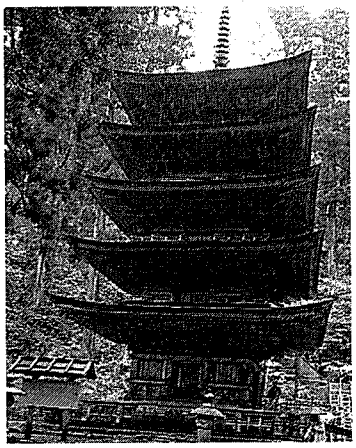
昨年10月29日から車中（バス）泊を含め３泊４日で山形県鶴岡市と酒田市への表敬訪問と盟約を結ぶ鶴岡市庄内由良へ友好親善訪問のため、升田榮二由良自治連合会長を団長に、上田清和宮津市副市長・由良自治連合会・由良地区公民館・由良の歴史をさぐる会とＮＰＯ法人千軒長者の館のメンバー12名が参加しました。

前日午後８時に由良を出発し30日の朝６時に２泊お世話になる庄内由良の「ホテル八乙女」に着く、横断幕を持った多くの地区民の厚い歓迎を受け、鶴岡市の好意により用意していただいたバスに乗り、早速私たちは鶴岡市役所を表敬訪問しました。山口朗副市長、遠藤米太郎由良自治会長らの出迎えを受け、山口副市長は「鶴岡市は北前船の寄港地だった加茂港も日本遺産への追加認定を検討している。宮津市や丹後由良との連携を深めていきたい。又、蜂子皇子とのつながりもさらに深めていきたい。」と歓迎のあいさつがありました。

升田会長は「丹後由良の船頭たちが加茂港に立ち寄り交易をした古文書がある。この機会に交流をさらに深めたい。今後は若者の参加者も進

め、後世に伝えていきたい。」等を返礼、又、上田清和宮津市副市長は宮津市長から預かった鶴岡市長あての親書を手渡し、その後お国自慢等の話が弾み予定時間を大幅にオーバーする訪問となりました。

市役所を後にして、明治以降公に開帳した記録のない日本遺産、羽黒山五重塔に寄り、羽黒山三神合祭殿再建２００年と天皇陛下御在位30年の佳節の年にあたり、その記念に御開帳となった内部を拝観し、心柱を中心とした内部構造や平安時代の三跡、小野道風筆と伝える報身・応身の額等が公開されていました。その後山伏の案内で羽黒山の三神（月山・湯殿山・羽黒山）合祭殿で約２００人の方と一緒に祈禱を受け、同場所の菜館で蜂子皇子が道すがら食したであろう在来野菜を盛り込んだ出羽三山の精進料理をいただきました。



帰りに、鶴岡市出身の藤沢周平記念館に立ち寄りました。

生誕90年特別企画展が開催され「三屋清左衛門残日録」の世界の展示や書籍、年譜、東京の自宅仕事部屋で実際に使っていた机や愛用品が展示されていました。

翌日31日、鶴岡市のバスで庄内由良自治会の方と一緒に酒田市役所を表敬訪問し丸山至酒田市長らの出迎えを受けました。

酒田市長は「北前船は１６７２年に江戸幕府の任を受けた河村瑞賢がこの酒田を起点として西廻り航路を整備されたことに始まり寄港地の中心になり、商人の町として飛躍的に栄え上方の文化が伝わりました。今もその名残があります。関連施設を是非とも見学して欲しい。酒田には高田屋嘉兵衛・銭屋五兵衛等の話があるが、酒田は過去に二年に一度の割で大火事があり、資料が少なくなっている。今、全市を上げて資料の収集にあたっている。丹後由良には酒田港・加茂港の北前船資料があると聞いている協力をして欲しい。」等歓迎のあいさつがありました。又、互いに北前船の話や市政方針、特産物など語り、話が弾みました。その後、日本遺産に指定された複製の北前船の絵馬３枚を寄贈し、宮津市・丹後由良へぜひお越しいただくようお願いし市役所を離れました。

帰りには、２００年前から郷土玩具で魔除けとして珍重されている酒田獅子「銀山獅子」の柄入りの小銭入れをいただきありがとうございました。

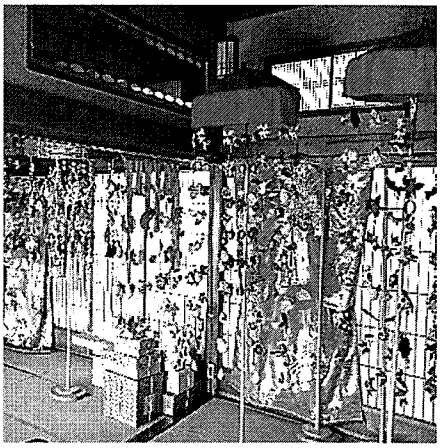
この日は大雨注意報が発令され雨脚が強い中、酒田市内の観光に移行しました。

最初、市役所から西側約１キロの日和山公園に行きました。ガイドさんから「日和山公園は酒田の豪商本間光丘の私財によって最上川河口の飛砂から町を守るため船頭たちの冬期失業対策として浜砂を積み重ね出来た公園で、近くには30万本の黒松が植林されている。船頭さんが出港前に日和を見た場所だそうです。日本最古の木造の六角灯台や方角石・常夜灯が現存している。園内には２分の１スケールの北前船が再現されている。」と説明がありましたが、酒田特有の風か、横殴りの雨が降り足早に公園を離れました。

次に北前船交易で財を成した廻船問屋の「旧鐙屋」を見学しました。屋敷は石置杉皮葺屋根の典型的な町屋作りになっており、内部は通り庭（土間）に面して10間余りの座敷と板の間が並んでいました。

鐙屋の繁栄ぶりは井原西鶴の「日本永代蔵」にも紹介されています。現在の屋敷は2度の大火事で再建されたものと伝えられています。当主は鐙屋惣佐衛門と称し酒田36人衆として町年寄役を務め町政にも重要な役割を果たしました。

次は元料亭（宇八楼）の「山王クラブ」に立ち寄りました。今は、国の登録有形文化財で大阪の食い倒れ、京都の着倒れ、酒田は普請と言われ、酒田の人は家財にお金をかけます。各部屋の作りが異なり、欄間、床の間、組子入建具、襖の引手など手の込んだ設らえとなっています。2階の東側は折上格天井で襖間仕切りを外すと、106畳の大広間になります。各部屋では北前船の寄港地として栄えた酒田の歴史や文化、来酒した文人墨客松尾芭蕉らを紹介しています。又、竹下夢二が愛用した部屋もありました。2階の奥に笠福の間がありそこでは



家族の健康や商売繁盛、豊漁などの願いを込め、天蓋幕を張った番傘に、着物の端切れなどで作った農作物や魚、動植物などをつるして色とりどりに飾った日本三大つるし飾りの一つ笠福が常時展示されています。同場所で数人の方が笠福の手作業中でした。

「本間様には及びもせぬがせめてなりたや殿様に」と歌われるまでなった酒田の豪商、本間家の旧本邸に立ち寄りました。玄関の樹齢約400百年の赤松が迎えてくれました。この建物は3代光丘が幕府巡見使一行の本陣宿として明和5年（1768年）

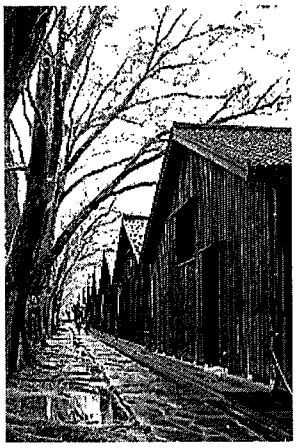
に新築したもので、母屋桁行33・6メートル七梁間16・5メートルの桟瓦葺平屋書院造りで2千石格式の長屋門構えの武家屋敷と商屋造りが一体となった珍しい建築様式で柱は総漆塗りです。建坪約200坪で23部屋あります。庭には北前船のバランス石として寄港地から持ち帰った赤や青等の珍しい色の石が並べられていました。巡検使が使用したのは2泊だそうです。その後荘内藩主酒井家へ献上しましたが、拝領され昭和20年まで商屋造りの方で生活をしていました。昭和24年から

51年まで公民館として利用され、その後一般に公開されました。

その南側に本間家旧本館（別館）があり約330年前本間家の初代原光が「新潟屋」として北前船積み荷などの取引場所として開業した店で、塩、綿、瀬戸物、薬などを取引、又、両替商・不動産業もして手広く商売し巨万の富を得ました。現在は土産品の店と本間家の歴史資料と北前船関係の資料等や大火事に備えた当時の火消し道具が展示されていました。

江戸時代に最上川上流で収

穫された天領米などを江戸へ送るよう命じられた河村瑞賢が西廻り航路を整備し、酒田に幕府専用の米蔵「瑞賢倉」が設置されたのが始まりで、（当時は年間65万トンの取引があったそうです。）今回立ち寄った「山居倉庫」は明治26年、酒田米穀取引所の付属倉庫として旧庄内藩酒井家によって、船による米の積み下ろしに便利な立地である最上川と新井田川に挟まれた通称「山居島」に建てられました。全長１６０メートルの、巨大な木造の倉庫を重ねた建物と最上川側からの強風を守るため植樹されたケヤキ並木が独特の風情を伝えています。設立当時は二重屋根や天窓、換気窓を配置し空調管理を行っていました。昔使われた舟寄もそのまま残り、物資輸送するための「小鵜飼船」も保存されていました。現在は12棟が残っており今も米蔵として使用されています。



「庄内米歴史資料館」として１棟を改装し米に関する資料や農具などが展示されていました。又、２棟を改装した観光物産「酒田夢の倶楽」ではお土産の販売、軽食コーナー、また、北前船の歴史、酒田の歴史を紹介するコーナーや酒田の豪商本間家が江戸時代に作らせた亀笠鉢の展示、ＮＨＫＴＶ「おしん」のロケ写真展がありました。

最後に「鶴岡市立加茂水族館」愛称「クラゲドリーム館」に立ち寄りました。クラゲの展示数では50種類以上あり平成24年には種類数でギネス世界記録を認定されました。又、庄内沖に生息する約１４０種類の魚などが展示され、アシカショウ等を行っています。この日は加茂水族館の名誉館長でオワンクラゲのタンパク質から緑色蛍光を発見し10年前ノーベル化学賞を受けた京都府福知山出身の「下村脩氏」が訪館前の10月19日に死去され、その追悼のため特別コーナーが設けられていました。

館を出ると雨がみぞれに変わり、海からの強風で寒さが身に沁みました。

その夜「ホテル八乙女」で33名の参加で親善交流会が開かれ、全員で記念写真を写し、両由良代表の挨拶に続き乾杯。歓迎の「八乙女太鼓」の皆さんによる勇壮活発な息の合った和太鼓の演奏、踊りクラブの皆さんによる格調高い祝賀舞踊や情緒豊かな地元の踊りが披露され、宴会を一層華やかにして頂きました。その後丹後由良訪問団員の自己紹介をして歓談。ここは丹後由良では？と錯覚するほどくつろぎました。帰りには「由良ふるさとかるた」と「はちこの皇子物語り」の冊子等を受領しました。

後になりますが、今回の訪問にあたり、関係する各地の皆様にいただきました過分のご支援心温まるご配慮に厚く御礼申し上げます。

庄内由良の皆様の丹後由良への訪問を心待ちすると共に此の交流が末長く続きますよう皆様よろしくお願いします。

行事報告

主事　千坂幸雄

◎グラウンドゴルフ大会（個人戦）

日時　10月27日（土）
　　午前8時20分～12時
場所　はまの子グラウンド
参加者数　男子19名
　　女子16名

〈参加チーム名〉
・由良オリーブを育てる会
・お友達チーム
・松寿会
・みしまプラス
・さくらちゃん
・えだまめ
・NOY119

〈結果〉
優勝　由良オリーブを育てる会
2位　お友達チーム
3位　松寿会

当大会は、生涯スポーツの普及と由良地区民の融和と親睦を深めることを目的にしています。
今後、より多くの方の参加を望みます。

◎由良地区文化祭

日時　11月11日（日）
　　午前9時～午後3時
会場　由良地区公民館
来場者数　約400名

天候は晴れ、風もなく、文化祭日和になりました。
2階大会議室では、文化祭のメインになる作品の展示を行いました。
「栗田幼稚園児、栗田小学校児童、栗田中学校生徒の力作」「日本習字潮風会支部中西先生以下、生徒作品32点の素晴らしい習字」「由良習字クラブの熟練の作品」「個人で出展の習字」「由良カメラクラブの美しく見事な作品」「見事な生け花11点」「手芸教室は手毬113体」「苔の鉢植え」「消防団操法大会優勝カップ・賞状」「庄内由良訪問コーナー」

1階では結・友・遊の方にうどん・寿司・ぜんざい販売をしていただきました。コーヒーコーナーも足湯の方を中心にしていただきました。
外ではバザーを行っていただきました。野菜や焼き肉、オリーブ製品などです。
今年初めての催しとして、午後1時半からオカリナの演奏をライリッシュオカリナみかんの花の皆様にしていただきました。観客の方と一緒になって歌を歌いながらの演奏で楽しいひと時を過ごすことが出来ました。
多くの方の協力を得てにぎやかな文化祭になっていることをつくづく思いました。
他の組織の行事を考慮して今までより1週間遅く開催したことが良かったようです。
次年度に向けて、多くの方から意見をいただき、より充実した文化祭になればと思います。

◎しめ縄作り講習会

日時　12月7日（金）
　　午前9時～
　　午前11時30分
会場　由良地区公民館
講師　三嶋　安夫氏
参加者数　11名

しめ縄を編む準備として外で藁を整え、藁打ちをして柔らかくします。余分な藁が多く出ますのでゴミ袋が必

要です。風がなかったので掃除がしやすかったです。

大会議室にブルーシートを敷き、その上でしめ縄を作りました。三嶋さんに見本を作っていただいていましたので、それぞれどこにお飾りするのかを説明していただきました。

各自で作りたいしめ縄を二つ三つ作りました。作り方はわかっていても『より』がうまくできません。三島さんが行うとさまになりますが、慣れないと難しいものです。それでも、皆さんは上手に仕上げていただいて正月には自分の作ったものを飾ることが出来ます。三嶋さんからも「市販のものより自分で作ったものを飾ることが値打ちだ。」と説明していただきました。

参加された方には見本を持って帰っていただきました。

港地区では公民館より早く三嶋さんに教えていただく会を開いていると聞きました。

しめ縄を飾る伝統を世代を超えて引き継いでいくことは大切な意味を持っているような気がします。

◎子供料理教室（餅つき）

日時　12月16日（日）
　　午前10時～午後1時
場所　由良地区公民館
参加者　子供13名
　　大人15名
　　（役員を含む）
講師　宮津市食生活改善推進委員　5名

子供料理教室は14回を迎え、今年度も昨年度同様に食改の方の指導を受け、由良子供会連絡協議会共催で平成30年度「こどものびのび体験活動」事業として「子供料理教室」を開催、今年度は「餅つき」に挑戦しました。

宮津市食生活改善推進委員の皆様に感謝申し上げます。打ち合わせと食材などの買い出し、前日には餅米をつけたりお椀や碓などの準備、当日にはぜんざいやサラダ作り、餅つきや餅丸めの指導、そして、片付けと大変忙しい働きをしていただきました。

子供たちは10時に集合しました。5歳以下のお子さんには保護者にも参加していただきました。

餅つきは二つの班になってつきました。小つきとつき上げは大人がしましたが、できるだけ子供たちに多くつく経験をしてもらいました。

丸める作業は全員で行いました。子供たちは、つきたての餅の感触を楽しみながら楽しそうに丸めていました。

餅をつくこと、丸めるこ

と、子供たちは何でも早く覚えます。子供のときの経験は忘れないものです。

食事の後は午後1時まで大会議室で卓球をして楽しんでいました。

◎新春囲碁大会

日時　1月5日（土）
午前9時～午後3時
場所　由良の戸（安寿足湯）
千軒長者の館
参加者　12名
由良囲碁同好会共催

結果は次のとおりです。

優　勝　藤井　忠氏
準優勝　上田　昌利氏
第三位　飯澤登志朗氏

優勝は4勝した藤井さんでしたが、5名が3勝1敗で並び、くじ引きにより2位と3位を決めました。

昼食は、安寿亭でうどんと寿司を用意していただきました。

昼食以外は何も口にせず、黙々と囲碁を楽しんでおられました。

今後も同好会の皆様には、楽しく囲碁で交流をしていただき、できれば囲碁の普及もお願いできればと思います。

「新聞の記事から」

5日「囲碁の日」に小学4年生で4段（ながだん）からプロ囲碁棋士になる中邑　菫（すみれ）さんが井山裕太棋聖と対局した。ハンディはもらったものの時間切れで引き分けになった。日本棋院の「英才特別採用推薦棋士」第1号である。

◎巡回ニュースポーツ教室（ユニカール、ファミリーバドミントン、ビーチボールバレー）

日時　1月14日（月）
午前9時～午前11時10分
場所　はまの子体育館
参加者　20名

参加の皆様にしてみたいスポーツを選んでいただけるように3つの種目を用意していただきました。始めはユニカールをする人とビーチボールバレーをする人に分かれ、それぞれの種目について説明をしていただいて行いました。

ユニカールは、カーリングを床でするようなスポーツであり、どなたでも楽しめます。

ビーチボールバレーは、私が子供のころ浜で楽しんだボール（手が痛くない、軽い）で行うバレーボールで必ず3回で同じ人が2回触れないようにして相手コートに返すルールがあり、皆さんで楽しむことが出来ます。（コート内に3人から6人でゲームができる）

ファミリーバドミントンは短いラケットで羽にテニスボールのようなものをつけたものを打ち合います。コート内には3名が入り1回又は2回で相手コートに返します。

参加の皆様のほとんどが、どのスポーツも経験することが出来ました。

宮津市教育委員会及びスポーツ推進員の皆様に準備・指導をしていただきました。

◎健康広場ウォーキング

○10月ウォーキング（体力測定）

日時　10月23日（火）
午前9時～
午前11時10分
参加者数　8名

10分間ウォーキングをした後で体力測定を行いました。

皆さん丁寧に測定に励まれました。

体力測定をしてみて若さとは年齢ではないということが良く分かります。自分の

体力を知ることで、これからどのようなことを心がけて生活すればよいかも分かります。

65歳からは高齢者用の測定種目になります。是非、参加してみてください。

○11月ウォーキング(滝上公園)

日時　11月18日（日）
　　午前8時40分～
　　午後1時
参加者数　15名
歩数…6，690歩
歩行距離…5・1km

丹後由良に8時40分集合、宮津駅まで丹後鉄道で往復しました。

市役所でおにぎりとお茶を配り、滝上公園までウォーキング、トイレ休憩の後、中央展望所まで登り、滝上公園でおにぎりを食べました。その後、うまいもん市に寄り、宮津駅まで歩きました。

○12月ウォーキング(七曲八峠)

日時　12月2日（日）
　　午前9時～
　　午後1時40分

参加者数　44名
歩数…11，260歩
歩行距離…9km

9時に丹後由良駅集合、由良地区健康広場主催、与謝山の会共催、山の会から16名参加、先頭と中間、最後尾を歩いていただき、途中リタイヤへの対応もしていただきました。又、山の会にはこの日のために道の整備もしていただきました。

24名は由良地区外からの参加です。11月30日の新聞記事を見て参加された方がおられました。

丹後由良駅を9時10分に出発、9時50分に山の神で1回目の休憩、10時10分に一の峠で2回目の休憩、10時50分に石切り場の先の川を渡ったところで3回目の休憩、（由良駅から4，811歩、4・1km）11時20分に石の道標（「宮津より三里三十町三十間」の表示あり）で4回目の休憩（昼食休憩、栗田湾が望めて見晴らしが良い）、12時30分に七曲八峠を抜けました。ここで5回目の休憩、途中何回か体調を聞きながら歩きました。全員元気に歩くことが出来ました。13時に栗田駅到着、記念撮影をして13時30分発の丹鉄で丹後由良駅に戻りました。

○1月ウォーキング（由良4社巡り）

日時　1月8日（火）
　　午前9時～
　　午前10時30分
参加者数…11名
歩数…6，171歩
歩行距離…4・7km

奈具神社、由良神社、玉司稲荷神社、照国稲荷神社を巡りながら神社にまつわる話をしたり、由良小学校の跡地前では小学校の昔話に花を咲かせました。歩いていると足から暖かくなり、歩き終わった時には体全体がポカポカとして血の巡りが良くなり、今日1日を健康に過ごすことが出来ました。

来年は北前船日本遺産の構成要素である金毘羅神社も巡ってみようと思います。

由良ヶ嶽登山証明書発行枚数
（平成30年1月1日～12月31日）

532枚

由良ヶ嶽登山感想ノートより

5月5日、良い天気に恵まれました。東の景色も良かったけど、西も良かった。天橋立の白浜が良く見え、美しいのう：と人のいない展望をゆったり楽しめました。良い山行きでした。整備してくれている方々に感謝！

ご意見箱より

登山計画書が入っていました。
・奈良勤労者山岳会
・岳々同好会（京都市北区）
・高槻勤労者山岳会
・日本山岳会福井支部
・三重県紀北町2名
・京都右京勤労者山岳会
・2名

「入山届がない」と書いていただいた方がおられました。

関西百名山の山です。まだ登ったことのない方や子供のころは登ったが最近登ったことのない方は登ってみてはいかがですか。

毎年、4月29日は由良地区公民館主催の由良ヶ嶽登山の日です。

前号（第164号）訂正のお願い

由良老友会『歴代会長』一代目**坂下坂一郎**となっていましたが、正しくは**坂下坂市郎**です。

訂正をお願いします。

子供料理教室に参加して

3年　浪江　翼駈

はじめに丸めました。丸めるのはむずかしかったけど、おばあちゃんたちに「ちぎったところをおしてまるめたらいい。」と教えてもらってうまく丸めることができてうれしかったです。次に、もちつきをしておばあちゃんに、「いい音しているね。」と言ってもらってうれしかったです。

つきたてのもちはおいしかったです。つきたてはやわらかくて食べやすかったです。もちを食べるときは、どんな味だろうと思いました。

サラダもぜんざいもおいしかったです。

つきたてのもちをもっと作りたいです。家でももちをいっぱい作りたくなりました。学校でも、家でも、行事でもおいしいもちを作りたいです。

でっかいきねは重かったです。

3年　松本　結瑞

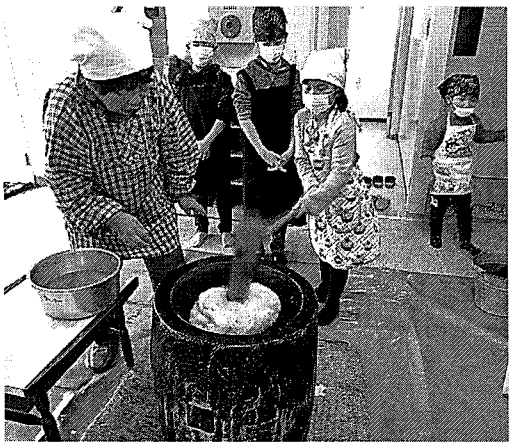
もちつきをしました。

もちつきはたたいたり、丸めたりします。

きねの大きい方ですると、重すぎて持てませんでした。丸めているときは、もちにかたくりこをつけました。丸めているときのさわり心地は、つるつるしていました。

それをおばあちゃんたちが調理してくれて、それを食べるとやわらかくておいしかったです。おもちを作ったり食べたりすると幸せになるのを知りました。

また、いつかもちつきをした



いです。

自分で作ったおもちはやっぱりおいしかったです。

わたしは今年で2回目のもちつきだったので、前の楽しみが思い出せたので良かったです。

4年　中西　遼人

今日、もちつきをして、きねが重くてびっくりしたけど、うまくできてよかったです。丸めるのは簡単ですごくじょうずにできてよかったです。

昼ご飯は、サラダとみかんがおいしかったです。左手でおはしを持って食べたりしたりしておもしろかったです。お茶はちょっと苦かったし、友達が笑かしてきてお茶を飲むのに苦労しました。つきたてのもちは、すごくうまかったです。

来年は、ケーキ作りかもちつきだから、がんばって作って、みんなで楽しく食べていきたいです。おかわりはしなかったけど、サラダが本当にうまくておかわりしたかったです。来年も作文を書くからきれいな字で楽しかったことをたくさん書きたいです。

5年　浪江　翔琉

もちつきは2年ぶりでほとんど忘れていたけど、教えてもらってついたり丸めたりしました。

もちつきでは、うすにもち米を入れて、そこから飛ばないようにしてもらって、一人が10回ずつついて米がもちになっていきました。最後に大人がつくときにはすごく音が出ていました。

丸めるときには、おばあちゃんたちがちぎってくれたもちをちぎったところを中に入れながら、丸めていき、お盆に並べました。みんなで丸めたので早くできました。

おばあちゃんたちがサラダやおぜんざい、きな粉もちを作ってくれて、おいしかったし、みかん重ねをして遊びました。

6年　大森　悠斗

今年で最後の料理教室に行きました。もちつきをして、きねが重たかったけど、うまくできて良かったです。丸めるのは簡単でしたが、きれいに丸く丸めるのが意外と難しかったです。

昼ご飯は、サラダとみかんと僕はきな粉もちでした。家のとはもちの味が少しちがったけど、とてもおいしかったです。僕は初めてではなかったけど、とても楽しかったです。今年からは中学1年生でもう行けないけど、中学生になっても行けたらいいと思いました。もちを最後に5個もらったので、家でお母さんにきな粉もちやぜんざいにしてもらっておいしく食べたいです。

今年で最後だったけど、思い出に残る「子供料理教室」になりました。すごく楽しかったです。また、家でももちを作ってみんなで食べたいと思いました。

庄内由良訪問記

小室智子

第6回目となる庄内由良への訪問に同行させていただきました。私の父の実家は脇の末蔵で、小さい頃から「お前は海族の娘だ」と言われて育ちました。父の持論では海族とは海の生業に関わる者なのだそうです。舞鶴市郷土資料館に勤めるようになって本当に末蔵の船が浜田外浦の客船帳に載っていたときはびっくりしました。しかもその帆は木綿布でなく筵帆でした。なんと無謀な！なんと勇敢な！先祖でしょう。そんなこんなで由良の古文書整理に関わることになって早5年ほどになります。今回、庄内由良への訪問を誘っていただいたときには酒田へ行けばもっと海運関連の資料を見ることができるのではないかと、軽い気持ちで行くことに決めました。行ってみて確かに北前船関係で大きな収穫がありましたが、それよりなにより大歓迎してくださった庄内由良の方々、長旅を企画調整していただいた丹後由良の方々のご苦労に接して感謝の言葉が見つからないくらい感謝です。

庄内由良では到着が50分も早くなりましたが、6時という早朝からホテルを開けていただき、鶴岡市役所表敬訪問の準備をさせていただきました。庄内由良自治会の方々も大勢で出迎えに来ていただきました。自治会からは4人もの方が2日間付き添っていただき羽黒山はじめとする鶴岡・酒田市の名所旧跡を案内してくださいました。それに答えて丹後由良の面々は升田自治連合会長はじめ、オリーブ・みかん・北前船とそれぞれの得意分野で堂々たる交流で頼もしく思いました。

私の目的だった北前船関係ですが、由良には各地に船で物を運んだり、売り買いしたりする文書が残っています。だいたい江戸時代から明治後半くらいのものです。（1700年代中ごろから1900年ころ）その中には今回訪問した庄内加茂や酒田の廻船問屋との取引が書かれています。これらの廻船問屋の文書がもし現地で残っていたら、由良の船頭のことが、そこに書かれている可能性があります。鶴岡や酒田を訪問することで、これらの廻船問屋の文書を調べられないかと期待したのです。しかし、庄内地方は風の強いところで度々の大火で燃えてしまって、ほとんど古文書は残っていないということでした。しかし、由良の古文書に出てくる廻船問屋の名前や住所からその店の様子を教えていただくことができました。俗謡に「本間様には及びもせぬがせめてなりたや殿様に」と謳われ殿様よりすごいといわれた本間家は、自前の船は持たずにすべてリースした船で遭難のリスクを避けたことをお聞きし、なるほどと思いました。ハクレイの中西六右衛門家もリースの可能性が高いのです。また、酒田はもともと「砂方」で砂がたまって湊には不向きなところだったそうです。そこに多い時には3千艘もの船が風待ちをして、良い風が吹いたらその3千艘が一気に湊を出ていくのだそうです。そんな風景を目の当りにしたら圧巻でしょうね。加藤長助家文書には庄内加茂との取引も多くあります。残念ながら庄内加茂の文書も残っていないという返事でした。しかし、バスで庄内加茂湊を通ることができました。ホテル八乙女から鶴岡市役所へ向かう海岸沿いでした。加茂にはくらげで有名な加茂水族館があります。

（最終日に訪問）あの有名なくらげの水族館が加茂だったとは・・びっくりです。さて、加茂は湊としては狭いし、岩だらけだし、「えっほんとにココ？」と信じられない思いでした。話を聞くとやはり岩だらけで湊に入りにくいので、水先案内人が船を誘導するそうです。加茂から鶴岡への道沿いには善賓寺というお寺もあって、このお寺の守り札は由良や神崎の船頭の家から必ずと言っていいほど出てくるものです。私たちの先祖もこの地に来ていたのです。このお寺に参っていたのです。

わたしは、普段は古文書の整理を仕事としているのですが、今回、庄内由良旅行に参加してみて、彼の地では紙に書いたものがなくても、建物や語り継がれたもので街づくりをしていることに驚きました。そして、いろいろな昔の風習を今のうちに聞き取っておかねば絶えてしまうという危機感を持ちました。どの家の歴史にも良いこともあれば隠したいこともあるはずです。でも、これは話してもよいということがあれば是非お聞かせ願いたいと思います。

最後の交流会では庄内由良から22人もの方が出席してくださり、踊りや八乙女太鼓で歓迎してくださいました。ずっと交流を続けてこられた池田様から交流当初は丹後由良では寝耳に水のような状態だったとお聞きしました。庄内由良では信仰する出羽三山の開祖として尊敬されていた蜂子皇子ですが、旅立った丹後由良ではそんなに知られた存在ではなかったそうです。その丹後由良の人々に庄内由良から声をかけられて、この交流が始まったそうです。庄内由良の呼びかけに答えて積み重ねた歴史がまた新たな歴史をつくってきたことに感謝です。こんな歓待を受けると、きっと私たちの祖先も庄内地方に来たら「あの蜂子皇子が船出した丹後由良の人が荒波を越えて来たよ」と優しくしてもらったのではないかと想像してしまいます。酒田から一気に3千艘が船出したなら庄内由良からも沖を行く船が見えたことでしょう。言い伝えがとぎれても、古い文書が見つかって復活したり、よそから教えられて復活したり、連綿と続く歴史はどこかで私たちの目の前に現れるようです。歴史をたどるつもりの旅でしたが、明るい未来が見えたような、元気を貰った旅になりました。最後になりますが、次回はかつてのように子どもたちも含めた交流ができたらと思います。参加した子どもたちはたとえ都会に出ても、わがふるさと由良と庄内由良の交流を誇りに思うことでしょう。本当に皆さまありがとうございました。

平成30年度 宮津市人権標語優秀作品

いじめのめ　ぬいたらさくよ　えがおのはな　（小学１年生）

友だちは　つまずくぼくに　たすけぶね　（小学２年生）

思いやり　心が動く　第一歩　（小学３年生）

山形県 庄内由良・鶴岡市・酒田市訪問記

平成30年10月30日

庄内由良への親善訪問を含め各市訪問交流については他の人にお任せして、升田自治連合会長のご配慮により北前船を中心とした時間を計画の中に入れて頂き、舞鶴市郷土資料館学芸員の小室さんと共に各市と今後に繋がる有意義な時間を持つことが出来ました。後日解った事も含めて簡単に述べます。

北前船について

庄内由良に於いては残念ながら確たる資料も無く今後の課題になりました。

丹後由良の古文書に（庄内）加茂港（庄内由良の隣町）と取引があった問屋があり、その名前を鶴岡市にお伝えしましたところ、それらの名前は今も多々存在している。今後北前船と関係があるか確認したい。「庄内加茂港も日本遺産に追加認定を検討している。宮津市や丹後由良地区と連携を深めていきたい」との山口副市長の御言葉もありましたが、古文書等の調査はまだ行われていないとの事でした。後日解った事ですが、庄内加茂に海の守護・龍神様を祀る善寶寺があります。その善寶寺の祈祷札が加藤家資料に多量（十六札）見つかる。と言う事は酒田、蝦夷地（北海道）へ行く途中毎に参拝祈願していた事と思われる。

参拝の際には丹後由良と同名の庄内由良の事は聞いたか訪れていたかもしれません。（140年以前からの交流？）

酒田市に於いては一時間以上の時間を割いていただき教えて頂いた。丹後由良との取引問屋名をお知らせしたが、やはり古文書については2つの理由により解析は出来ていないとの事。1つは酒田市は何度も大火に襲われほとんど資料は消失したようだ。もう1つは廻船問屋でもある本間家は大火の消失は免れたようですが、一切古文書は公開されていないとの事。残念ながら丹後由良の古文書以上の関係は深く知ることはできなかった。日本一の地主として知られている本間家は船を所有していなくとも廻船で利を成したと聞いた。

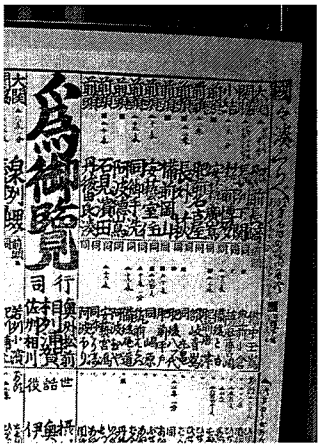
後日「ジュニア版・酒田の歴史」（酒田教育委員会）によるとよその船を頼って商売していたが、文化5年（1808）4月手船日吉丸を新造した。船主として廻船問屋を行うようになり商売のやり方を大きく変えた。安政初年（1854頃）には蝦夷地へ本間船が10艘入港している記録があると書かれている。後日解った事ですが（柚木学著）嘉永4年（1851）

羽州庄内酒田・万福丸　沖船頭・生国丹後由良

天保11年（1840）酒田　尾関又兵衛　万代丸　茂右衛門　生国丹後由良

丹後由良の人が酒田の船主の下で船頭をしていたことが記されている。

酒田市で見た湊くらべ表（年代不明）右上段左から大関・肥前長崎から始まり関脇・長州下関小結・筑前博多　前頭・安芸広島・肥前名古屋・長州萩・備前岡山・安芸室住・同御手洗・阿波徳島・石見浜田・丹後由良湊とかなりの上位にある。



この度の親善訪問で多くの方（特に庄内由良の皆様）にお世話になり感謝感謝です。

（加藤正一）

北前船の出帆地をたどって
〝大阪木津川の港へ〟

中西洋一

今日、北前船について、よく語られ聞きます。昭和50年代後半ごろから「村おこし・町おこし事業の一環として各地に北前船資料館が開設されました。平成26年7月25・26日には宮津市において「北前船寄港地フォーラム」が開催され、全国各地から多くの関係者が集まり、盛り上がりました。この取組を通して由良地区には北前船資料館を平成27年3月25日にオープンし、セレモニーを催し、宮津市長をはじめ大津市の堅田から来賓を迎えて船頭踊りを披露しました。そして、平成30年5月24日、日本遺産に認定され、平成31年2月4日、看板が北前船資料館の玄関左側窓の下の壁に大きく掲げられました。

北前船の出帆地を訪ねる旅を考えていたところ、大変詳しく研究し、資料を用意されていた方が由良に在住しておられ、協力を求め、勉強会を持ちました。その方はセバーグ由良に住んでおられる末松誠さんです。末松さんは大阪市大正区出身です。由良の歴史をさぐる会が研修旅行を計画、11月19日（月）に北前船出帆地大阪木津川の港を訪ねました。7時40分発で西舞鶴へ向かい、京都交通の高速バスに乗車、大阪難波駅で下車し、市バスで目的地、三軒家公園に午前10時30分に到着、末松さんの案内で公園内に設置されている近代紡績工場発祥の地で大阪紡績創建の碑とその説明板について具体的に学ぶことができた。「東洋のマンチェスター」といわれるほど繁栄しましたが、昭和の大空襲で焼け野原となった。現在は工場や倉庫が建ち並んでいますが、往時の様子を推測することはできます。

三軒家川の広さが6万坪で約19万8千平方メートル、甲子園球場の4倍ないし5倍はあったという。その川の中央部分は大阪府が掘削し、船囲場を設置して２００隻ほどの北前船が係留したそうです。木津川は安治川の支流で中の島西端辺りから分流し、大阪湾に流れ込んでいます。この川に土砂が堆積して島がいくつかでき、そのうちの一つが三軒家といわれています。三軒家公園の周辺を歩き、八坂神社に参拝。近くの「やまと温泉」こうわ湯レストランで昼食、午後から堤防沿いを歩いて泉尾から千島北に入り、ここで木津川水門と三軒家川水門を背景に記念写真を撮り、渡し船（定員48名）に乗船、対岸の北津守に渡り、「落合上渡船場」で同じく二つの水門を背景に記念写真を撮り、千島北に戻りました。渡し船は市営で無料、楽しい経験ができました。午後2時30分、コーヒータイムをとり、大正橋東詰（大阪市浪速区幸町3丁目）にある大地震両川口津波記石碑を見せてもらった。１８５４年に発生した安政地震の記録が残されていました。碑には１４８年前の宝永地震の教訓を生かすことができなかったことが書かれていた。そして、「年月がたてば伝え聞く人は稀となり、忘れ去られてしまうが、今後はこのようなことが無いよう、災害を後世に語り継いでほしい」と結んであった。まさに、平成23年3月11日に発生した東北大震災津波災害を思い起こし、その通り痛感した次第です。以上で研修内容は終わりとしますが、最後にお世話していただいた末松さんに厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

西郷隆盛（四）

中西　衛

西郷は戊辰の役の後の明治元年11月、鹿児島へ帰った。

新政府の閣僚就任の要請も固辞して帰郷した。地位も名誉も眼中になかった。俗塵を避け、自然の中に身を置いて長い兵馬倥偬の疲れを癒そうとした。

しかし、藩主島津忠義は藩政改革を意図して西郷に仕官を要請し、2年2月、島津参政・一代寄合の辞令を出した。ところが5月、旧幕臣海軍副総裁、榎本武揚らが函館五稜郭に拠って反政府の軍を起こした。西郷は征討大総督総参謀である。即刻、薩摩兵を率いて出陣し、函館まで出かけたが、幕臣軍の全面降伏で戦いはすでに終わっており、そのまま帰国した。

西郷は、帰国と同時に今までの上之園町の陋屋から移って鹿児島市外武村（武町）に居を構えた。慶応元年、城下士、岩山八郎太の娘、糸子と結婚したまま留守ばかりさせていたが、ようやく家族との団欒をもつことができた。久方ぶりに山野を跋渉して念願の兎狩りなどに汗を流していた。

そのころ、中央政府では2年6月17日に版籍奉還、6月2日は勅書により戊辰役の輪功行賞が決定し、西郷は永世下賜二千石を賜った。藩士としては最高の処遇（木戸孝允、大久保利通各千八百石、大山綱良八百石、桐野利秋二百石）だった。

9月26日には正三位に叙せられた。しかし、西郷は旧藩主島津忠義が従三位で自分がその上の正三位は受けることができないと在京の大久保利通を通して辞退届の聴許を願い出た。翌年5月聴許された。

折角帰ってきた故山だったが、やはり長くとどまることはできない。明治天皇の意を体した勅使岩倉具視、副使大久保利通が3年12月18日、鹿児島へ出向いてきて出仕を促した。

中央政府強化のため、どうしても西郷の出馬が必要だった。

懇請もだし難く4年2月2日上京した。できたばかりの明治政府は、はっきりした指導理念のないままに派閥を作って葛藤が絶えず、政治は停滞して淀んでいた。6月、西郷は参議に任命された。木戸孝允と二人だけで、今までの参議は全部免職になった。西郷は重責を担い、政府改革に取り組んで手腕を発揮した。薩長土三藩兵による親兵制度を創設して、7月14日には廃藩置県を断行。約300の藩と200万人の武士の特権が1日で消滅し、一挙に四民平等の社会となった。また、兵制を改革して国民皆兵制度を決定したり警察制度を新設するなど着々と新政府の基礎作りを強行した。

ところが、西郷のこうした労苦をよそに4年11月12日、右大臣岩倉具視を全権大使とし、参議木戸、大蔵卿大久保、工部大輔伊藤など約50名の大使節団が欧米諸国視察に出発した。目的は各国との条約改正予備交渉と先進国の文明を吸収し、制度組織を学んで友好を深めることにあった。一行には政府首脳幹部のほとんどが加わっており、残ったのは太政大臣三条実美と西郷隆盛、大隈重信、板垣退助の各参議だけ。参議筆頭西郷を首班とする留守内閣ができた。そのころ、政府内部には薩長を中心とする勢力と大隈など非薩長派との対立がしだいに目立ってきた。大隈は西郷留守政府の独走を抑えるために、大久保利通とはかって約定書を作成することを提案した。すなわち、留守政府は新政策

は一切行わない。制度、人事は現状維持にとどめるというものである。西郷は余儀なく同意した。廃藩置県後の不安定流動的な政局、派閥人事の葛藤反目、不安士族の反発、役人の腐敗などを前にして拱手傍観しなければならない西郷の苦悩はしだいに大きくなる。

政治は生き物である。即刻対応した政策をとらねばならない。いつまでも証文を守っているわけにいかない。留守政府は必要に応じて新政策を実施し、制度人事を行った。しかし、このことがのちに使節団と留守政府との決定的な対立を生むことになる。2年近い外遊視察から帰った時、木戸、大久保は西郷の遺韓使節論を約束違反と言って難詰した。

西郷が留守政府を預かっている明治5年5月、天皇は西国巡幸の途に就かれた。廃藩に不満を持つ西南の諸侯を慰撫するのが主なる目的である。特に島津久光が、そのために西郷を目の仇にしていることを憂慮されて鹿児島に行幸されることになった。明治天皇は5月23日、軍艦龍驤で東京を出発、西郷参議、西郷従道陸軍少輔、川村純義海軍少輔、吉井友実宮内少輔など文武諸官が供奉する。天皇は伊勢神宮ご参拝の後、大阪、京都、長崎、熊本をご巡幸されて6月22日、鹿児島にご着御。鶴丸城内の行在所にお入りになるが、西郷は黒のフロックコートに白羽二重の帯に両刀を差して扈従した。錦衣帰国である。

7月20日、陸軍元帥に任じられ、汚職事件に絡んだ山形有朋の辞任に伴って近衛都督を兼任する。参議兼任陸軍元帥近衛都督西郷隆盛である。そして、留守政府の首班である。近衛兵の反乱、山城屋事件など激動する明治政府の重鎮が180㎝、116キロの巨躯に大きくのしかかってきた。明治元年1月、政府は各国に対して王政復古を布告し、特に隣国韓国とは友好関係の修復を意図した。しかし、韓国は国交は不安として排日的な動きをあらわにした。木戸孝允は、この韓国の態度に激怒し、12月、岩倉参議に韓国攻撃を建白した。三条太政大臣と岩倉はこれに賛意を示し、2年12月、木戸を韓国に派遣して日韓交渉をもつことにした。しかし、その後、内憂外患山積して実行をみないうちに欧米視察団の派遣が始まり、この問題は西郷留守内閣に預けられることになった。日韓関係は依然として悪化するばかりで好転の兆しはない。三条太政大臣は6月6日、参議を召集して、この案件を討議した。板垣退助は直ちに出兵すべしと主張したが、その時、西郷は「まず使節を派遣し、折衝交渉が決裂したときに武力を行使すべきである。」と使節派遣を提言した。

三条の緊急の要請を受けた使節団の大久保が5月、木戸が7月23日、岩倉が9月に帰ってきた。岩倉は西郷の遺韓使節論を聞き、大久保とともに「内治優先」を強調して反対する。10月14日の閣議で、岩倉と大久保は使節派遣の延期を主張。これに対して西郷は「派遣は既に決定していること。即時決行」を強調し、もし了承がなければ辞職すると申し入れて散会する。翌15日の閣議には、西郷はもう言うことはないと欠席、大久保は自説を曲げず、副島、板垣らは西郷の韓国派遣は内定済みのことと論じて譲らなかった。議論は収拾がつかず、三条と岩倉はやむを得ず西郷の主張を入れようとしたことから大久保と木戸が辞表を提出した。17日の閣議には内治派は誰も出てこない。西郷は「前回の決議どおりに早く上奏してご採決をえよ。」と三条に迫った。三条は心痛のあまり病気になって辞表を提出した。岩倉具視が太政大臣代理になった。22日、西郷、板倉、江藤、

副島らの参議は岩倉に「天皇のご裁可」を迫ったが、岩倉は強硬に反対。こうして遺韓使節論争は潰れてしまい、西郷主張の使節派遣は葬り去られた。

西郷は23日、参議陸軍大将近衛都督の辞表を出して退出。板垣、副島、江藤、後藤の4参議も翌24日、辞表を提出した。大久保は岩倉に進言し、西郷の参議、近衛都督は辞任、陸軍大将は元のままとして発令させた。大久保の陰謀はみごとに成功した。西郷は28日、飄然と鹿児島へ帰っていった。

西郷の辞任帰国を知った旧薩摩出身の軍人、文官は西郷を慕ってつぎつぎと辞職して帰郷。その数は六百数十人にものぼった。

西郷、板垣などが辞任した後、大久保独裁政権ができた。大久保は内務省長官として、地方行政、殖産振興、土木通信交信、警察行政など、すべてを掌握し、大蔵卿大隈重信、工務卿伊藤博文が、これを助けた。大久保は西郷留守政府が着手した施策政策をつぎつぎと遂行していった。

「西郷、大久保の両人が本来親友の関係であったのに、俄かに不倶戴天の敵となったのは、明治6年5月、帰朝直後の大久保が西郷を訪ねて面談した日の衝突に始まったと考えられる」「両雄衝突の原因は、明治4年11月、洋行者と残留者との間に取り交わされたる約定書にあった」「西郷が非難を受けたのは、あまりに親切に処置し、適切に手当てした点が余計な手立てをした事けしからぬという点にある」つまり、戦争の起因は、たんに約定書違反ということではなく、西郷留守政府の見事な政治行政処理にあった。ここまで立派にやってくれとは頼まなかったという大久保の嫉妬心だったとしている。

短歌

朴本　清

年毎に一句に残る福寿草
今も思い出鮮やかに燃ゆ

春日差し抹茶を点れて一人居は
雪の静寂(しじま)や憩う一時

朝焼けの里山冴えて雪僅か
春の由良川川霧流る

寒き冬雪に耐えぬき玉葱は
春の日差しにのびのびと生く

宮津過ぎ窓に長々白砂に
浮き山白く遥か天の橋立

由良が光り輝いていた時代（8）

由良の歴史をさぐる会　加藤　正一

「資料編　No.8」

十代将軍　家治

天明八年（一七八八）二月二十一日

「徳川幕府・巡見使（約二三〇年前）由良へ来た」

徳川幕府巡見使とは将軍が代替わりごとに幕府から五幾七道の政情・民情視察のため派遣された。しかし将軍のうち巡見使を派遣したのは九人に過ぎない。

三代将軍家光が派遣した寛永十年（一六三三）の巡見使が最初である

四代将軍家綱が派遣
　寛文七年（一六六七）
五代将軍家綱が派遣
　天和元年（一六八一）
六代将軍家宣が派遣
　宝永七年（一七一〇）
九代将軍家重が派遣
　延享三年（一七四六）
十代将軍家治が派遣
　宝暦十一年（一七六一）
十一代将軍家斉が派遣
　寛政元年（一七八九）
十二代将軍が派遣
　天保九年（一八三八）

幕府は全国を八つの巡見区に分け（五畿内筋、四国筋、九州筋、中国筋、北国筋、奥州筋、関東筋、東海道筋）それぞれ原則として使番・書院番・小姓組番の三人を一組として派遣され、諸国の民情を巡使して将軍に報告した。

寛永十年（一六三三）
　は北国、（小浜市史）
寛文七年（一六六七）
　は北陸道七ヶ国に但馬、丹後を加えた九ヶ国、
天和元年（一六八一）以降
　は近江と北陸道七ヶ国であった。
福知山～田辺～宮津
宝永七年（一七一〇）
　宮津から田辺へ御こし、泊り、（舞鶴市史）
宮津～田辺～福知山
享保元年（一七一六）十六日
　田辺、十七日宮津へ御こし
福知山～田辺～宮津
延享三年（一七四六）
　一三日由良昼休み田辺泊り、
　一四日宮津へ御こし
宮津～田辺～福知山
宝暦十年（一七六〇）
　下記詳細説明
福知山～田辺～宮津
天明八年（一七八八）
　二一日由良村ニ昼休み
福知山～田辺～宮津
天保九年（一八三三）
　四月入藩由良村昼宿
　松原寺、新兵衛、源右衛門
福知山～田辺～宮津

宝暦十年（一七六〇）の詳細順路

田辺（泊）～宮津口番所～上福井村～大船峠（小休）～中山村（小休）～中山村渡場～和江村揚場～石浦村～由良村（昼休）～浜通り～長尾峠御境（小休）～宮津藩

中山村渡場～和江村揚場は渡し船で渡った。

　これらから田辺（現舞鶴）より宮津。と逆の宮津から田辺への順が年代によりある。どの行路でも長尾峠を通っただろうことは想像できる。

天明八年（一七八八）の由良を通った巡見使に於いては舞鶴市所蔵の三政規範によるとさらに詳しく準備状況も記されている。

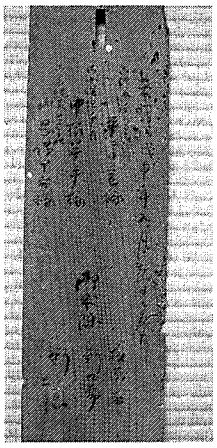
　五月一九日江戸より巡見使様次の方々お越し
　御頭：松平惣兵衛様
　用人：中根半平様
　目付：山岡伝重郎様

御巡見御国順（○休印、△泊印）

山城国：
　△京　△宇治　△木津
　△草内村△淀　△錦織
丹波国：
　△亀山　△園部　△福住村
　宮田村　△柏原　○小多利村
　△生野町　△上大久保村

△紅村　△広野村　△綾部
△福知山
丹後国：
○河守町　△北有路村
△田辺　○由良村　△宮津
○弓之木峰山　△海士
○鱒留村　△加悦
但馬国：
○小谷　△出石　△豊岡
△坊岡　△香住　△浜坂
△湯村　△村岡　△関宮
△養父市場　△竹田
播磨国　摂津国　河内国　和泉国　大和国　紀伊国　巡見使を迎えるにあたり、三政規範によると、田辺藩は準備万端準備したことが以下の容から窺える。
一、町　御止宿迄　罷り越事
松平惣兵衛様　松原寺代幸助
中根半平様　同村　新九郎
山岡伝重郎様　同村　新兵衛
一、右麻上下着罷り越　如前条
御案内申上諸事承合候事
一、町御発駕前郡奉行、御勘定奉行　由良村へ罷越　郡奉行
道筋掃除申付
一、宮津口御番所はづれゟ由良村入口迄御先立大庄屋幷庄屋者前日之通　御先立御家来衆江
一、町　御発駕　前郡奉行、御勘定奉行由良村へ罷り越す
郡奉行　道筋　掃除申し付け
等々細かく段取りが指示されている。田辺を出る時は駕籠に乗っている。又、
一、長尾峠へ薄縁むしろ五枚
とあり長尾峠を越えて宮津へ行った事がはっきり解る。
この長尾峠これこそが七曲八峠と言われる難所で丹後国加佐郡旧語集（万延二年一八六一）に「この峠座頭（眼の悪い人）転ばし鋳物師（重い物を持つ人）戻し（返す）とて細き山際小石常に転がりて甚だ危なき道成」と詳しく記されている。徒歩で越えたと思われるが駕籠はどうしたのだろう？
郷土館にこの時の巡見使の事が解る木札が現れる。

山岡傳十郎様　御休



天明八戊申二月二十一日

（一七八八）

天明八戊申二月二十一日御通行
御本陣
御使番　千五百石□
松平惣兵衛様　松原寺
御小姓組　千石
中根半兵衛　新九郎
御書院番　七百石
山岡傳十郎様　新兵衛

この木札は山岡傳十郎様の休み所新兵衛宅に掲げられた木札であり、巡見使が来たことが証明される。
この一行は三政規範に

一御使者　千五百石
松平惣兵衛様
（御用人二人　給人三人　中小姓五人　徒士四人　足軽七人
手廻り六人　中間五人　計三十三人）

一御小姓千石
中根半兵衛様
（御用人二人　給人三人　中小姓四人　徒士四人　足軽七人
手廻り六人　中間六人　計三十三人）

一御書院組加番御進物方七百石
山岡傳十郎様
（御用人二人　給人二人　中小姓四人　徒士三人　足軽五人
外に御用人　中間六人　計三十三人）

総勢約一〇〇人の大人数である。それらが由良で昼食を取ったことでどれだけの騒動だった事とか、当時の状況がわかると面白いが。

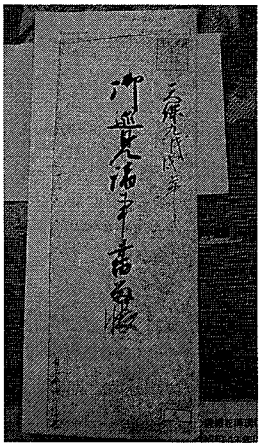
三政規範の一部を付け加えると、

一、二十一日五つ時（午前八時頃）前町方出発、由良村へ九つ時（十二時）に御着きになるように四つ半時（十時頃）御出立。

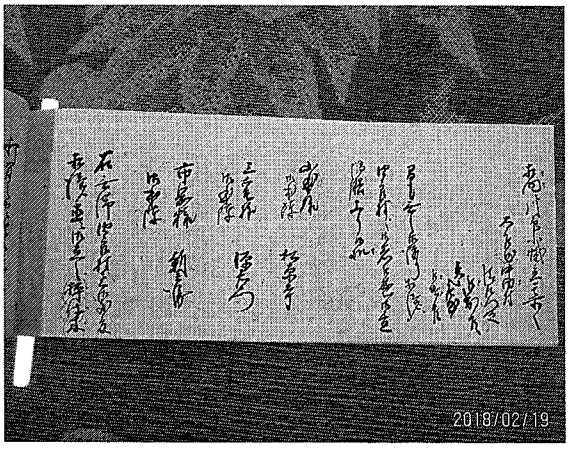
一、由良御休み（昼食）御立

長尾峠御境とどこうり無く御通行

七曲八峠を越えて宮津へ行った事が解る。



天保九戌年（一八二二）
御巡見諸事書留帳
（舞鶴市所蔵）



山本七郎左衛門様
使　番　千五百石
御本陣　松原寺
（用人二人他　小計三十六人）
三宅三郎様
小姓番　千石
脇本陣　源右衛門
（用人二人他　小計三十一人）
市岡内記様
書院番　五百石
脇本陣　新兵衛
（用人二人他　小計二十八人）
総計九十五人

由良村昼宿　松原寺
源右衛門
新兵衛

天明八年（一七八八）と天保九年（一八二二）の巡見使を比べると

一、書院番の役職石高が七〇〇石から五百石に格落ちになっている。

一、由良村の昼宿（脇本陣）に新九郎が抜け源右衛門に代わっている。北前船船主で財力アップの源右衛門と交代したのか。

一、両巡見使（天明八年・天保九年）とも田辺藩と宮津藩の境、長尾峠を見分し七曲八峠を通って宮津に行っている。

幕府の巡見使が由良を通り休み見分したのは由良が重要な地であったと云える。

編集後記

その時中学生だった私は宮津駅の待合室にいました。テレビには記者会見の映像。眼鏡をかけた年配の男性が墨で書かれた文字を掲げており、次の瞬間、「新しい元号は『平成』」子どもながらに「昭和から平成に変わるんだ」と思いました。

今年5月、私たちは改元を迎え、平成の時代が終わります。この30年程の間に世の中は大きく変わり、由良地区でもここには書き尽くせない様々なことがありました。

そのような中でもこの公民館だよりは途切れることなく発行され、公民館活動は名誉ある賞もいただきました。新しい時代に入っても、充実した活動になるようにしていきたいと思います。

由良地区公民館文化部員